

城西国際大学創立 30 周年にあたり、学生さん方、先生方に差し上げるメッセージ

一宮町長 馬淵昌也

城西国際大学が、創立 30 周年をお迎えになられたとのこと、一宮町の長として、心からお祝いを申し上げます。まことにおめでとうございます。

このお祝いの行事の一環として、わたくしが貴学を訪問し、講演を差し上げるようにとのご依頼を頂戴し、まことに光栄に、そして嬉しく存ずるところでございます。講演に先立って、貴学の学生さん方、先生方に対する期待の一端をメッセージとして寄せさせていただきます。

かえりみれば千葉県にも、いくつもの大学がございますが、外房地区には相対的に少なく、特に九十九里地域においては、貴学をおいて他にはございません。地域に大学という最高学府が位置しているか否かは、その地域の知的イノベーション力の強弱に直結することです。従って、大学の立地ということは、わたくしども行政や地域社会にとっては、特に重要なことであるといえます。

そういう意味で、貴学は、わたくしども地元にとっては、かけがえのない大事な存在であり、期待もきわめて大きなものがあります。そうした状況のもと、貴学サイドでも、地域との連携を一貫して重視して頂き、お膝元の東金市とは包括連携協定のもと、さまざまな協力の実を挙げておられると伺っております。

わたくしども一宮町とも、東京 2020 オリンピック大会のサーフィン競技が一宮町で開かれることを契機に、様々な形の協力事業を展開することをめざして、包括連携協定をご締結下さいました。これはわたくしどもにとっては大変嬉しいことでもございました。オリンピックは、世界レベルのスポーツの大会ですので、貴学のもつ、世界とつながる回路の太さに大いに期待を寄せさせて頂いたのです。しかし、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、オリンピックは無観客開催となってしまい、貴学と一宮町との協働は、全く進展を見せないままになってしまいました。

しかし、オリンピックが開かれたことは事実であります。したがって、わたくしどもの任務としては、この記憶を後世に伝え、世界・日本全体から、一宮町を含む、九十九里外房地域へ注目を集めるためのキーとして機能させてゆくことが重要です。

この文脈の中で、わたくしどもとしては、貴学の皆様との、持続的で徹底した協働関係の可能性を、ポストコロナの時代とともに生きる地域のチームメイトとして、ともに追求してゆきたい、と強く願っております。

つまり、これからが本番なのです。日本は総体として少子高齢化が進み、人口減が進んでいます。外房地域も例外ではなく、むしろ千葉県の中でも衰退傾向が顕著な地域です。しかし、わたくしどもは生き残るために、様々な可能性をどこまでも追求してゆかなくてはなりません。世界・地域・未来をつなげるハブとして自ら任じておられる貴学の学生さん方、先生方とのコラボは、その中で特に重要だと思います。大都会東京からの距離が比較的近いながら自然豊かなこの地域が生き残ってゆくために、皆さんの力をわたくしどもにお貸しください！ともに、この地域に生きるものとして、世界と結びつきつつ地域の未来を担ってまいりましょう！わたくしからの強い期待を込めて、貴学の学生さん方、先生方へのお祝いのメッセージとさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。